

ら考へると誤が存すべきことは、少しく念を入れて本文を読むものには直ちに分ること、無論シャヴンヌ、ペリオ兩氏も注意し、「次從明心」の下に「化出誠信、加被淨風、次從明念」が脱したものと見て居る (op. cit. 45 [541]. note 6)。これもトルコ文のものには第八文書の一に明かに記載されて居る。著者の譯をこゝに引くならば、

3. aus seinem Gliede „das gemüt“

4. das Frömmigkeits-Wissen entspriessen lassend,

5. ziehet er es dem Windgotte an.

と見えて居る。併しながら漢譯本に見えて居つてトルコ文に缺けて居る處も少くない。假令ばこゝに引いた漢譯文に「〔從明念〕化出具足、加被明力」と記されてあるのが、後者には全く缺けて居る如きは其の一例である。

漢譯本には此の一節に引き續いて、第二日者云々、第三日者云々と記されて居る。然るに第一日者云々の文字は之に先立つて居る處に記されて居ない。之についてシャヴンヌ、ペリオ兩氏は、「本文には第一日について外見上記されて居ないが、然も世界ミクロコスムの第一日は必ず明尊を像る十三者(十三者といふのは本文について見れば分る通り氣・風・明(力?)・水・火・憐愍・誠心・具足・忍辱・智慧・及び呼嘯瑟德・嘍嘍嚙德と恵明とを指す)の結合で出來て居るものと思はれる」(op. cit. 47 [543])と述べて居る。然るにトルコ文には明かに第一日なる語が記されてあつて、第八文書の一、裏面第二行より第四行に互つて

Dies ist der erste lichte Tag mit seinen zwölf [guten] Stunden, die er allen electi ^{*}anzieht (mitteilt)

と記され、次に Und der zweite lichte Tag ist dies と書き續けてある。此の第二行の初めにこれは (dies) と